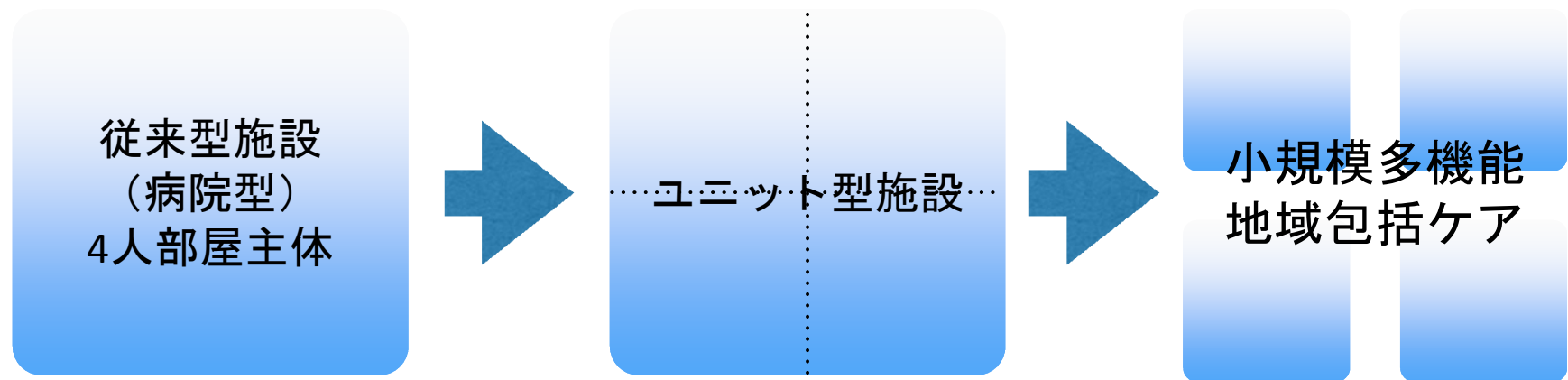


ICTを活用した効果的・効率的 なサービス提供の取組

2015/08/20

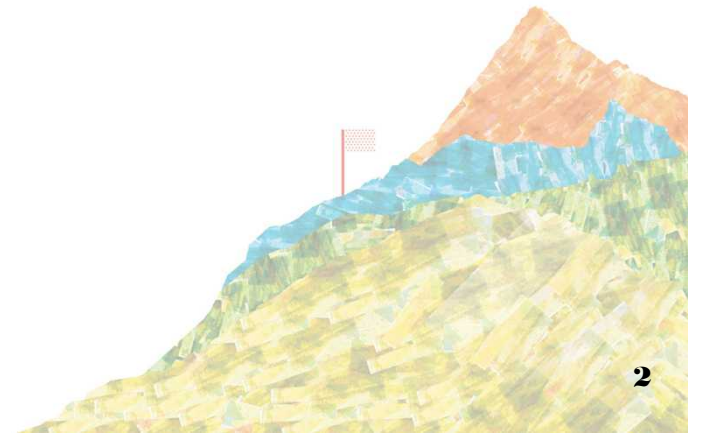
社会福祉法人こうほうえん
副理事長 廣江晃

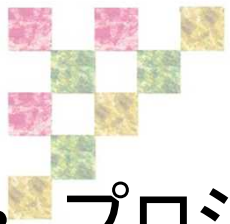
介護の歴史



ケアの質とは何か？

良い介護福祉士とは？





プロジェクト概要

- プロジェクト名：
介護業務における情報活用基盤を用いた介護の質の評価に基づく、新しい「人財教育・評価サービス」の検討・実用化
- (独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター (RISTEX)の「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」の1つとして採択(平成24年10月～平成27年9月)
- 社会の具体的あるいは潜在的なニーズを把握し、実データや事例を利用し、分野融合型のアプローチで、問題解決のための技術・方法論等を開発するとともに、「サービス科学」の研究基盤構築を目指した研究を推進
- 慶應義塾大学(代表)、社会福祉法人こうほうえん、株式会社日本経営戦略人事コンサルティングの共同研究

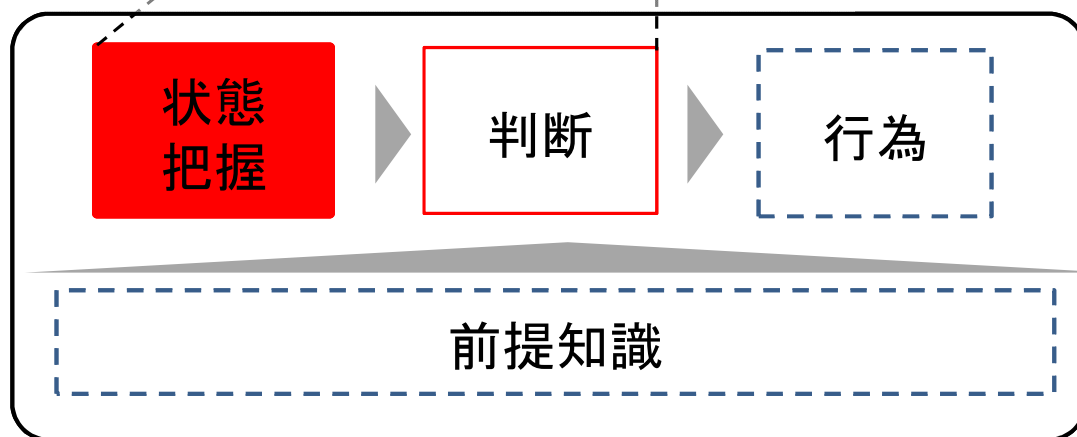
本プロジェクトの特徴

介護の質の向上を目指した人財教育・評価のためには介護における「熟練性」とは何かを把握する必要あり

従来の医療・介護者の熟練性の考え方



このプロジェクトでの捉え方

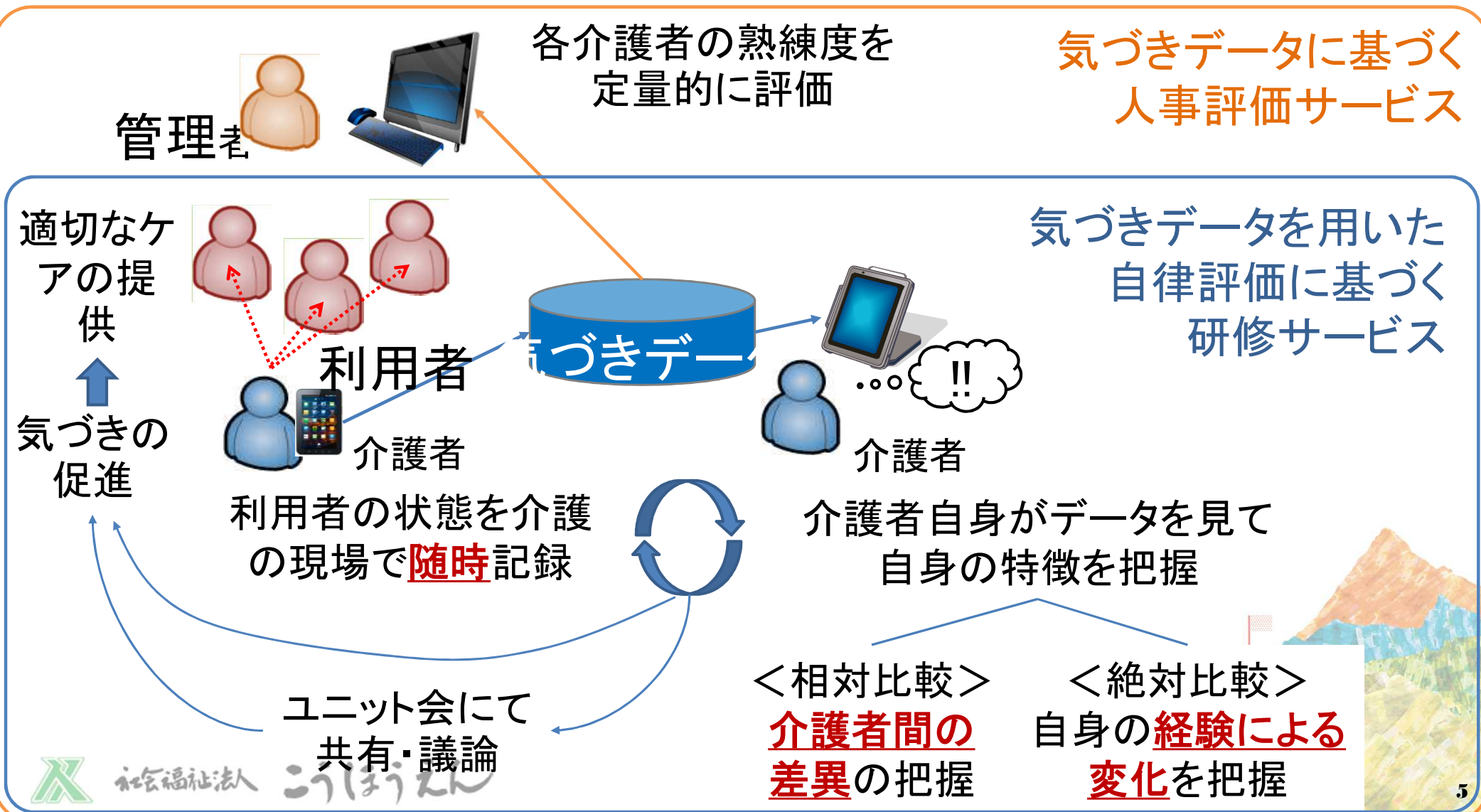


- 従来の医療・介護者の熟練性は、主に「知識」と「技術」によって評価されてきた

- このプロジェクトでは「知識」や「技術」ではなく、「判断」に着目
- 判断を、利用者に対する「状態把握」とそれに基づく「判断」に分離し、「状態把握」に熟練度による差異があることを確認

本プロジェクトの目的

各介護者が現場で行う利用者の状態把握をデータ(「気づきデータ」として蓄積し、これを活用した自律的な研修(学習)や人事評価をサービスとして実現する



気づきデータの記録

- どの利用者が(利用者名)
- いつ(時間→自動的に入力)
 - どこにいるときに(場所)
- どのような行動をし/どのような様子であり(項目)
- 状態はどうであるか(評価値) を記録

【項目の分類】

- 利用者の行動に関する項目(基本的なケアに関する行動・社会性行動)
- 利用者の様子が気になった時に記録する項目(気づき)
- 利用者の状態を把握するため能動的な働きかけをした時に記録する項目(働きかけ)
- 利用者の状態をより深く考察し何らかの判断に至った場合に記録する項目(洞察)

【評価値】

- 普段通りを「普通」とし、「とても悪い」～「とても良い」の5段階で評価

介護者名

ユニット名 登録

表情 とても悪い 悪い 普通 良い とても良い デイルーム

仕草 とても悪い 悪い 普通 良い とても良い 気づき

声 とても悪い 悪い 普通 良い とても良い

意欲 とても悪い 悪い 普通 良い とても良い 利用者名

声かけ とても悪い 悪い 普通 良い とても良い

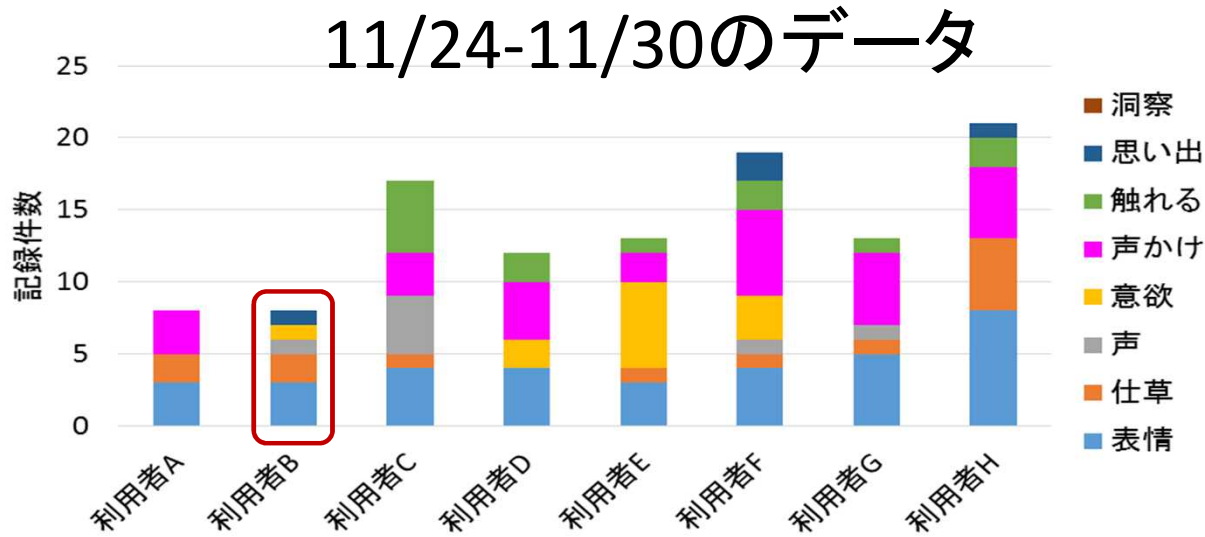
気づきデータの活用の2つの方向性

- 【ユニットとしての活用】
 - 全般的な傾向を見て、各利用者とのかかわりに関する問題発見に利用
 - ユニットで抱える問題の解決のために、必要に応じてデータ入力に関するローカルルールも設定しながら、特定のデータに焦点を当てて分析
 - 発見した問題に対する取り組みの効果検証に利用
- 【個人としての活用】
 - 他の介護者と比較し、自分の特徴(強み、弱み)の把握に利用
 - 自分の過去のデータと現在のデータを比較し、成長の確認に利用

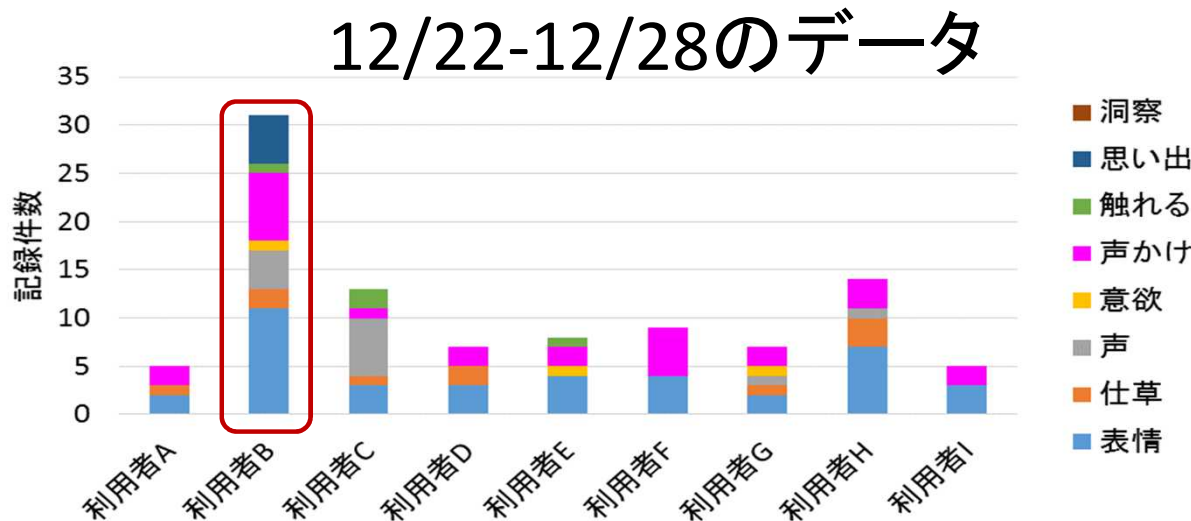
ユニットとしての活用事例

課題：利用者Bが他の利用者に対して意地悪をされたり、職員に対して大きな声を出されたりしていた

職員の声かけから行動されることが殆どいたため、寂しく思われているのではないか

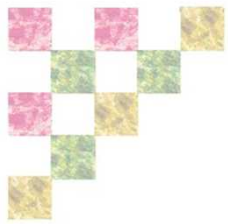


利用者Bだけ「声かけ」(図中ピンク色で表示)の記録がないことを確認

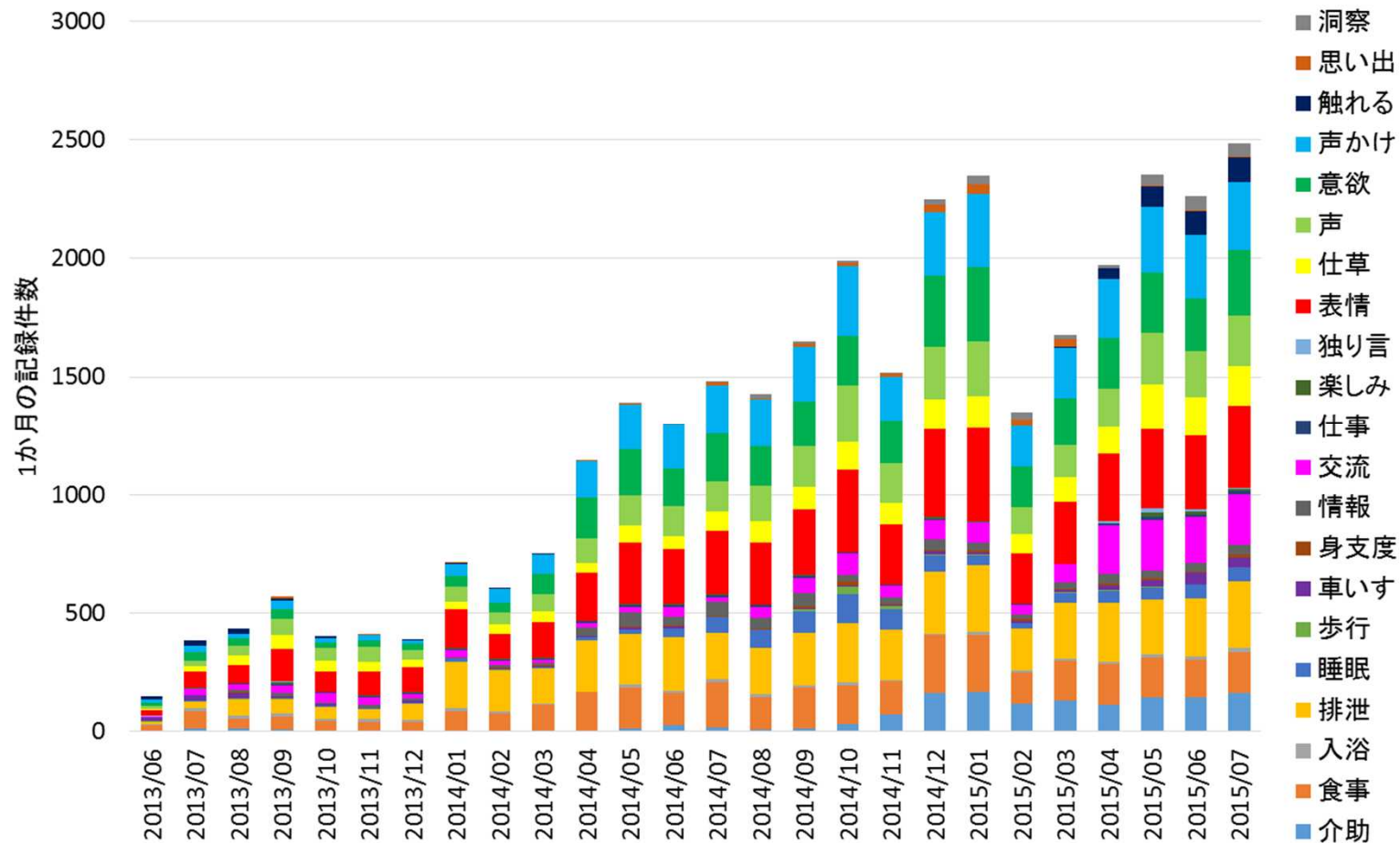


利用者Bからの声を待つのではなく、なるべく職員からの声かけで何かをしていたくようにした

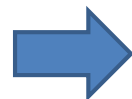
利用者Bへの声かけが増え、利用者Bの様子も落ち着いた*



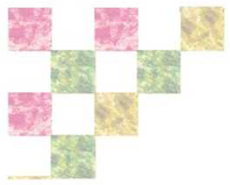
個人としての活用事例①



記録件数や項目の内訳の内訳等のデータにより、自らの気づきの特徴を把握

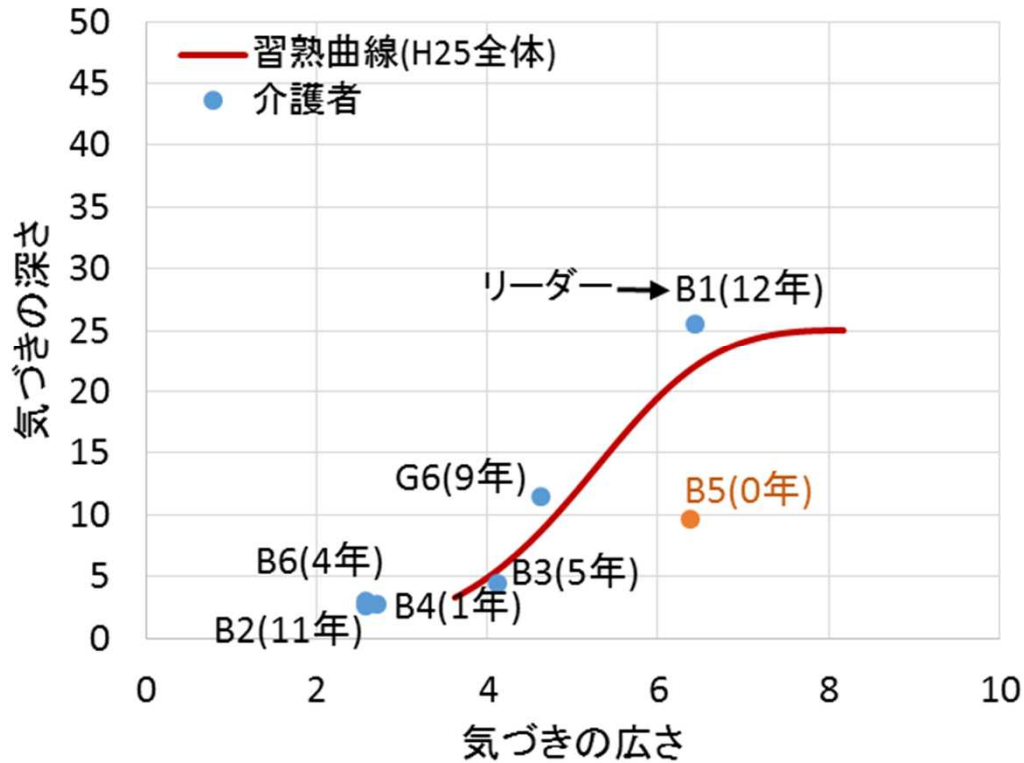


上記データの介護者B5は、項目について大きな変化はなく、表情と排泄が多いのが特徴だが、もっと違う視点での観察や関わりが必要だと認識

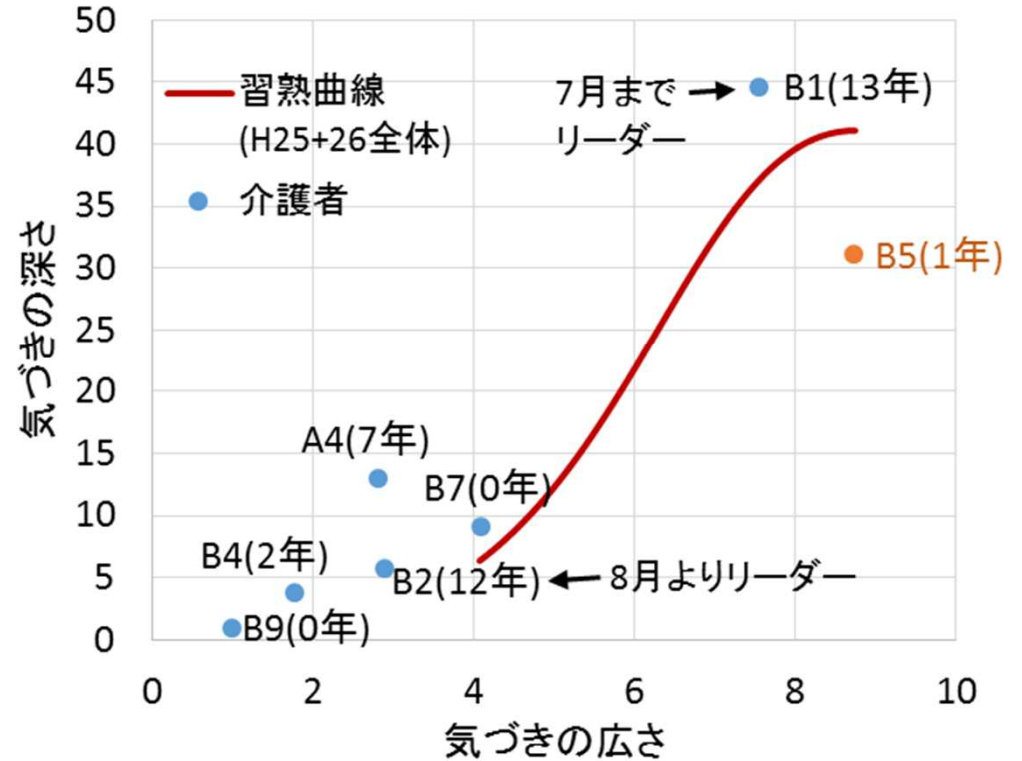


個人としての活用事例②

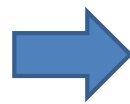
H25 ユニットB(昼間)



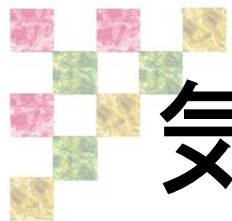
H26 ユニットB(昼間)



各介護者の気づきの特徴を表す指標として、「気づきの深さ」「気づきの広さ」を定義し、介護者間の比較および介護者内の時系列



成長著しい介護者(上のグラフの介護者B5)は1年間で気づきの広さも深さも大幅に増していることが示された



気づきデータの利活用の効果

- ① 各介護者が、気づきデータの入力を通じ、さまざまな視点から、より注意深く利用者の状態を観察するようになった
- ② 各ユニットが、気づきデータを活用して、問題発見や抱えていた課題の解決をし、ケアの改善に繋がった
- ③ 各介護者が、気づきデータのフィードバックにより、自らの特徴を把握することができた

将来的には、既存の介護記録との連携により、より効果的な気づきデータの活用が見込まれる

このシステムの今後の利用法

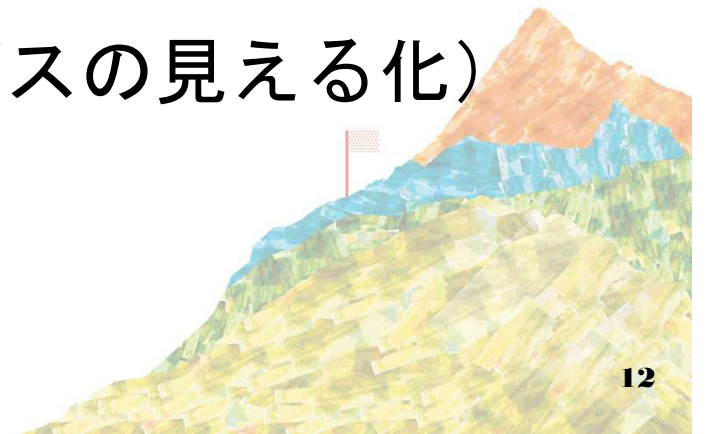
介護現場における電子カルテ導入時の記録時間の短縮

新人職員への教育ツール（自己成長の見える化）

Coming Soon ?

外国人労働者への教育ツール

（日本流サービスの見える化）



ご清聴ありがとうございました

